

令和 2 年浦安市教育委員会第 1 回定例会会議録

浦安市教育委員会

令和2年浦安市教育委員会第1回定例会

- I. 日 時 令和2年1月9日(木)
開 会 午後3時00分
閉 会 午後4時41分
- I. 場 所 市役所4階 S5, 6会議室
- I. 進 行 教 育 長 鈴木忠吉
- I. 出席委員 教育長職務代理者 宮道 力
委 員 宮澤 ミシェル
委 員 舘 里 枝
委 員 吉野 則子
- I. 出席説明者 教育総務部長 白石嘉雄
教育総務部次長 醍醐 恵二
教育総務部副参事(教育総務課長) 河野良江
教育政策課長 宇田川 知久
教育施設課長 須賀 真
学務課長 大和利光
学務課主幹 鈴木明美
指導課長 丸山 恵美子
教育研究センター所長 山本 典子
保健体育安全課長 亀山 さゆり
千鳥学校給食センター第一調理場
・第二調理場・第三調理場所長 前田 唯一
生涯学習部長 八田 吉浩
生涯学習部次長 高梨 晶子

生涯学習部副参事（生涯学習課長）	島崎浩一
生涯学習課主幹	斉藤恭一
市民スポーツ課長	望月勇人
青少年センター所長	小澤浩一
郷土博物館長	金子義則
高洲公民館長	小林順子
中央公民館長	川口雅之
堀江公民館長	三浦正志
富岡公民館長	堀木和久
当代島公民館長	河野純栄
美浜公民館長	本多浩美
日の出公民館長	岡本修司
中央図書館長	加藤竜治

I. 傍聴人 1名

I. 案件

第1. 会議録の承認

1. 令和元年浦安市教育委員会第11回定例会会議録の承認について

第2. 教育長からの一般報告

第3. 審議事項

第4. 協議事項

1. 浦安市特別支援教育のあり方検討委員会の進捗状況報告

第5. 報告事項

1. 行事開催案内

(1) 第22回市民手工芸作品展開催案内

- (2) 生涯学習×高齢社会フォーラム開催案内
- (3) 企画展「浦安の海苔養殖」開催案内

2. 行事・会議報告

- (1) 令和元年度第2回浦安市学校給食センター運営委員会開催報告
- (2) 令和元年度第2回浦安市青少年センター運営協議会開催報告
- (3) 令和元年度第3回浦安市文化財審議会開催報告

3. その他・報告事項

- (1) 教育委員会共催・後援行事一覧
- (2) 令和元年度2学期末相談事業実施状況
- (3) 令和元年度浦安市小中学校保護者及び教員の教育に関する意識調査について
- (4) 令和元年度冬季休業中における事故等の報告

第6. その他

開 会 (午後 3 時 00 分)

鈴木教育長 これより令和 2 年浦安市教育委員会第 1 回定例会を始める。
議事に入る前に、案件の追加について委員の皆様にお諮りする。
議事の第 4. 協議事項に、浦安市特別支援教育のあり方検討委員会の進捗状況報告を追加することに承認いただけるか。

(「はい」の声あり)

鈴木教育長 異議がないので、議事の第 4. 協議事項の 1. 浦安市特別支援教育のあり方検討委員会の進捗状況報告を本日の案件に追加する。
それでは、議事に入る。
議事の第 1. 会議録の承認である。
1. 令和元年浦安市教育委員会第 11 回定例会会議録について、承認いただけるか。

(「はい」の声あり)

鈴木教育長 異議がないので、令和元年浦安市教育委員会第 11 回定例会会議録は承認された。
なお、会議録の承認に当たり、会議録の署名を宮澤委員にお願いします。
次に、議事の第 2. 教育長からの一般報告に移る。
1 点目は、令和 2 年を迎え、本年は、東京オリンピック・パラリンピック、浦安三社例大祭の開催や、小学校の新学習指導要領完全実施など、記憶に残る年になると感じている。
7 月 4 日 (土) には、オリンピックの聖火が本市を通過する。子どもたちに目の前を走るオリンピック聖火リレーを生で見せるため、授業日にする。実施計画は、今後、市および教育委員会より提示していく。昨日行われた校長会議において、全校児童生徒およそ 1 万 2,000 人の引率

や教職員 1,000 人の参加協力などを依頼するとともに単なる参観だけではなく、レガシーとして子どもたちの記憶に残るようなオリンピック教育を実施してほしいと話したところである。

2点目は、千葉県総合教育センターでは、授業改善の一助とするため、優れた指導案をウェブサイトに掲載しており、本市の教職員の指導案が、千葉県教育庁葛南教育事務所指導室長から推薦されたことについてである。推薦された指導案は、北部認定こども園の第9回幼稚園等初任者研修で提案した指導案の全てと、明海南小学校の3年生社会科「働く人」、そして、美浜南小学校の6年生外国語「Unit 4 I like my town.」、「We Can! 2」、最後に見明川中学校の2年生数学科「一次関数」となる。

このような小さな成功体験を積み重ねていくことが大切だと思う。校長先生方には、学校でぜひ紹介していただき、先生方を大いに褒めていただきたいとお願いしたところである。

3点目は、12月24日(火)に車椅子テニスのジュニアランキング日本一の高洲小学校の橘龍平君が市長表敬訪問に来庁されたことについてである。橘君は、次のパリで開催されるパラリンピックの有力選手である。市長も以前、橘君と一緒にテニスをしたことがあるようで、とても話が盛り上がっていた。

4点目は、12月25日(水)に行われた中学生の「税についての作文」の表彰式についてである。

市長賞に高洲中学校の3年の宮永君、教育長賞に明海中学校3年の阿部君、納税組合長賞に日の出中学校の3年の久保さんが、それぞれ受賞した。また、同日開催された「社会を明るくする運動 千葉県作文コンテスト」の県知事賞に富岡中学校2年生の鷹影君が受賞し、表彰式で県知事から受賞された後、市長表敬に訪問された。中学生の子どもたちのすばらしい感性と、自らの体験に基づいた思い、また、学校で学んだことを素直に表現しており、本当に素晴らしいと思う。

5点目は、緊急災害時の対応についてである。昨年末、非常に急激な風雨が子どもたちの下校時間と重なった。教育委員会としては、年度当初に子どもたちの登下校に関して通知をしているが、改めて、その判断

の難しさを感じた次第である。

台風 15 号・19 号の際に高校生が胸まで水につかりながら下校していたとの事例があり、県教育委員会からは、子どもたちの安全確保が最優先との通知がなされた。私は、子どもたちを保護者に安全に手渡しすることが最も重要だと考えている。学校は、給食終了後 18 時頃まで、何も食べ物がない状況の中、小さな子どもたちを長く学校に引き留めておくことにためらいがある。避難所の非常食は地域のための備蓄となっており、学校内だけの利用は難しいため、例えば、PTA で非常食を用意するなど考えられる。学校施設の開放は、校長先生の立ち会いが必要になるため、緊急避難あるいは自主避難の退避場所については、校長会に協力いただきながら、緊急時の対応の指針やマニュアル等を決めていきたいと考えている。

以上、教育長からの一般報告とさせていただきます。

それでは、次に議事の第 3. 審議事項に移るが、本日は審議事項の上程はない。

次に、議事の第 4. 協議事項に移る。

浦安市特別支援教育のあり方検討委員会の進捗状況報告について、事務局より説明を求める。

1. 浦安市特別支援教育のあり方検討委員会の進捗状況報告について、宇田川教育政策課長より説明がなされた。

鈴木教育長 児童生徒数推計の累乗近似値とは何か。

宇田川教育政策課長 2020 年以降の将来推計をする際、伸び率を係数を用いて推計したものとなる。

鈴木教育長 特別支援学級・特別支援学校を利用する児童生徒の割合であるため、必ずしも配慮を要する子どもの割合ではない。2040 年頃に 6 歳から 14 歳の人口が少し伸びているが、この要因は何か。

宇田川教育政策課長 児童生徒の6歳から14歳の人口は、なだらかに減っていく推計となっている。

鈴木教育長 2040年に増えている要因は何か。

醍醐教育総務部次長 全人口を見た場合には、このような増え方はしないが、特別な支援を要する子どもたちの直近の係数を見たときに、長期で見ると増える可能性が十分に見込まれたことから、このような係数とさせていただいた。短期間の数値をもとに推計しているため、先に行けば行くほどデータの精度としては下がってくる。人口は減るが、特別支援学級の要請は出てくるという見方をした。

委員 児童生徒数推計は、2015年以降が掲載されているが、もっと以前を振り返り、過去のデータを見ていくことも重要であると思う。例えば、その増加が、地域格差によるものなのか、転入によるものなのか、それとも元々浦安に住んでいるなどという要因も見えてくると思うが、それが、意識調査の設問で触れられるのかどうかを教えていただきたい。

宇田川教育政策課長 十分検討し、将来推計に反映させている。

鈴木教育長 子どもが浦安に在住しているのか、それとも市外からの転入者も見込んでいる数字なのか。

醍醐教育総務部次長 今、特別支援学級に通う小学生は130名程度おり、その半数以上が元町となる。また、元町の子どもたちの77%が賃貸の建物に住んでおり、持ち家は23%となる。それが、中町に行くと50%程度となり、新町では全て持ち家となる。このことから、生まれたのは浦安市ではなく、浦安の取り組みを評価し、転入されたのではないかと推測できるため、今回の調査の中で、出生地を確認する設問を入れている。

委員 通常学級を抽出されるということだが、どのような設問内容になるのか。

宇田川教育政策課長 全保護者に対して、特別支援教育に係る現在の本市の取り組みの満足度や取り組みの必要性、卒業後の進路希望、また、特別支援学校の必要性などを質問する。また、特別支援学級・特別支援学校に限定した質問は、障がいの状況や相談機関、その満足度、学校・学級を選択した理由を質問する予定である。

鈴木教育長 委員は、配慮を要する子どもがいない保護者に対し、満足度を聞くのはいかがかということだと思う。

委員 偏見も一つの大きな問題であり、親も子どもも障がいに対する偏見をなくしていくことは非常に重要なことだと思う。設問例をすぐに挙げることはできないが、意識調査を通じて、把握することができればよいと思う。予算の都合もあるとは思うが、この調査を単発的に実施するのではなく、縦断的に毎年繰り返し、それらのデータを蓄積し、要因を把握するためにも継続していくことが重要である。

委員 意識調査は保護者と教員が対象となっているが、配慮を要する子どもが、通常学級にいる時間もあると思うので、高学年の子どもたちに対しては調査を行ってもよいと思う。以前、通常学級の子どもたちに、配慮を要する子どもが学級にいるときの様子を聞いたところ「別にいてもいなくても同じだよ」と答えていた。ほかの子どもと一緒に遊ぶことができる場合は異なると思うが、朝、「おはよう」と挨拶をするだけで、空気と同じような存在に感じている子どももいるという話を聞いた。そのような環境についても調査すると、今後役に立つのではないかと思う。

醍醐教育総務部次長 今回の調査では、抽出した通常学級の5年生と2年生の保護者が対象

となっているが、この調査に限らず、隔年で実施している生活実態調査等に盛り込めるか、検討させていただきたい。

山本教育研究センター所長 教育研究センターのまなびサポートもこのアンケート調査に協力させていただいた。この調査の中には、説明文章も入っており、この調査を通じて、保護者の方々に障がいに対する理解を深めていただき、周知にもつながると考えている。

また、通級に通う子どもたち以外の子どもたちが、どれだけ障がいに対して理解しているかという点については、合理的配慮の提供や特別な支援をする場合に、通常学級の子ども達にも障がいを理解させていく授業を行い、どうしてこの子だけ特別なことをするのかという子どもたちの疑問に対し、配慮を必要とする子どもがどのような困難さを持ち、努力をしているのかを学級全員に理解してもらうための取り組みを行っている。学級全体で取り組まなければ、その子どもの伸びにも難しさがでてくるため、通級指導教室の担当は、通常学級の先生方や子どもたちの指導も含めて取り組んでいる状況である。

鈴木教育長 よろしいか。

それでは、議事の第5．報告事項に移る。

まず、1．行事開催案内である。報告事項の(1)から(3)について、事務局からの説明を求める。

(1) 第22回市民手工芸作品展開催案内、(2) 生涯学習×高齢社会フォーラム開催案内について、島崎生涯学習課長より説明がなされた。

(3) 企画展「浦安の海苔養殖」開催案内について、金子郷土博物館長より説明がなされた。

鈴木教育長 ただいま報告がなされた行事開催案内3件に対する質問を受け付ける。

委員 「浦安の海苔養殖」についてだが、漢字表記の「海苔」と表現されているところと、カタカナの「ノリ」や、ひらがなの「のり」と表記されているところがあるが、これはどのような意図なのか。

金子郷土博物館長 漢字の「海苔」は、製品としての海苔となり、今回は「海苔」の養殖ということで、漢字の「海苔」を使用した。「知られざるノリの生態」にあるカタカナの「ノリ」は、生物的なものに限定して使用している。また、題名は、広い意味で漢字の「海苔の生態」という形で使わせていただいている。商売的には漢字の「海苔」やひらがなの「のり」を使っており、「のり講座」については、講師と相談し、ひらがなの「のり」を使用した。

委員 最近、海水の温度の上昇により、ノリがとれなくなっているという話を聞く。市内全小学校の小学4年生が、このような体験をすることに関連して、郷土のことを知るといふ点にとどまらず、環境と地域をテーマに新たなコンテンツができるのではないかと考えている。浦安にはノリをはじめ、三番瀬、アオギスもある。先生方の負担になってしまうかもしれないが、理科の先生や関心を持っている先生がいたら、ぜひ、発展させていただき、浦安ならではのコンテンツを作っていただきたい。

鈴木教育長 この企画展は例年開催している企画展となるが、昨年度からの変更点はあるか。

金子郷土博物館長 この海苔養殖の企画展示は、長年にわたり開催している。当初は、基本部分とオプション部分も含めて企画していたが、現在では、教育的視点から統一性を図るような形で開催している。今後は、オプション的な企画等を学芸員と話し合い、検討していきたいと思う。

鈴木教育長 浦安の子どもたちが4年生で同じ内容を体験学習することは、とても意味があることだと思う。それとあわせて、環境変化により生き物の生

育が変わるということを経験教育に結びつけ、4年生以外の子どもが学習機会を得ることも大切である。博物館には、昔の海苔養殖の映像は残っているのか。

金子郷土博物館長　この企画展自体は、展示が中心となっている。映像は、エントランスホールのコンテンツなどで見ることができる。今後は、三番瀬環境学習施設もできたため、博物館内だけではなく、境川や三番瀬の自然環境のテーマも郷土学習として取り組む予定であるため、海苔の企画展も学芸員と話し合いながら、工夫していきたいと思う。

委　　員　　やはり体験型が一番だと思う。郷土学習から環境学習につながりが持てるようになるとよいと思う。

鈴木教育長　生涯学習×高齢社会フォーラムについて、今回、福祉部と一緒にフォーラムを開催しているが、どのようなきっかけで開催に至ったのか。

島崎生涯学習課長　平成28年度に文部科学省の出先機関である国立教育政策研究所の調査研究の一環として、浦安市で高齢者の地域参加のモデル事業を実施した。その中で、認知症予防に効果があると言われている回想法を用いたボランティア講座を開催し、受講者が学んだことを地域に生かせる取り組みにしていこうと立ち上がったのが「浦安思い出語りの会」という団体である。

また、地域福祉活動では「浦安介護予防アカデミア」が活動している実績もあり、そういった活動の紹介をはじめ、これから浦安市も高齢化が進展していく中、高齢の方たちを含む全ての人たちが健康で生きがいを持って、社会で安心して暮らしていけるよう考えるという視点から、福祉部と連携し、このフォーラムを開催することとなった。

鈴木教育長　ほかにないか。よろしいか。

それでは次に、2. 行事・会議報告に移る。報告事項の(1)から(3)に

については、事前にお配りした資料をもって報告とさせていただきます。

行事・会議報告3件に対する質問を受け付ける。

浦安市学校給食センター運営委員会開催報告で、運営委員からは、浦安の給食は非常に安全性が高く、美味しいと評価を受けている一方で、センター方式であることから他市から来られた先生方からは、給食の味がいま一つという辛口の意見も聞いているが、いかがか。

前田千鳥学校給食センター所長

校長先生からは給食日誌の中で、味についての感想もいただいている。自校式とは異なり、子どもたちの顔が見えないことや、給食センターでまとめてつくることで、どうしても味が落ちてしまう。給食の残渣率は、平成26年には24%の食べ残しとなっていたが、30年度には11%となり、右肩下がりで落ちている。味についても調理員と栄養士が協議しながら、良い味を出せるよう検討しているところである。文部科学省で、朝夕食に各家庭で何を食べているのかを調査しており、各家庭で不足している栄養を学校給食で補えるよう通達があるため、どうしても家庭で食べられていないヒジキなどの海藻類や豆類、白身魚などが多くなってしまい、その給食の食べ残しも多くなっている状況となっている。食べ残しを少なくするために、子どもたちに人気のあるメニューを提供したいところだが、栄養価が偏ってしまうため、それはできない。栄養価のことを考えた上での給食の配食であることを理解いただきたい。

委員 子どもたちから給食の味などについて感想を聞く機会はあるのか。

前田千鳥学校給食センター所長

市内小学校の1年生を対象に学校訪問し、給食が始まる前の4時間目を利用して、子どもたちに食の大切さや残さず食べることの大切さを伝えている。

中学校でも、学校で挙げていただいた学年を対象に子どもたちから直接、給食について意見をいただいている。

鈴木教育長

毎年栄養士が学年を変えながら、子どもたちから意見を聞いていると

いうことであったが、自校給食では、そういった栄養士や調理員が学校の中で給食をつくるため、お互いの顔が見え、給食の香りも感じることができる。センター方式では、遠くから送られてくるため、何だか出前みたいな印象を持ってしまう。栄養士も学校から離れて献立をつくるため、献立をつくるのに苦労されていると思うが、学校現場にいた時には同じような献立が続いていたという経験もある。できれば、栄養士には、他市の美味しいと好評の給食や工夫されている給食を視察してもらい、研究してほしいと思う。

委員 私も給食センター運営委員会に出席したことがあるが、食べ残しの多いメニューは、大体、色の黒いメニューが多いように思う。

幼稚園の子どもには、お母さんがキャラ弁などきれいなお弁当をつくり、子どもに美味しく食べてもらえるよう工夫をしていると思う。そのような環境で育った子どもたちに、真っ黒な食べ物を提供しても、それがどんなに栄養価が高くても、食べたくないと思うのではないか。味もちろん大事だが、自分の子どもに食べさせるには、どうしたらいいのかという視点で、見た目も少し考えていただきたいと思う。

また、今、CO₂の排出がすごく問題になっている。子どもたちにも自分たちが食事を残したら、どんなことになってしまうのかという問題意識を教える必要があると思う。

鈴木教育長 青少年センター運営協議会の情報交換の中で、青少年が巻き込まれるネットトラブルは、学校でも生徒指導として対応する必要がある。委員の方の発言に「最近、出会い系サイトとしては、ラインは有名であるが『ヒマ部』という学生専門のコミュニティーサイトや、『斎藤さん』というひまつぶしトークアプリがあり、これらが悪影響を及ぼしている」とあるが、これはどういうサイトか。

小澤青少年センター所長 トークアプリの「ひま部」は、学生専門の出会い系のサイトであり、事件に発展したと聞いている。ライン以外にも様々なアプリがあり、そ

れらを通じていろいろな問題が起きていると警察の方から発言があった。

鈴木教育長 IT技術の進歩に大人がついていけないため、知識の向上のためインターネット連絡協議会の専門の方にお話を伺ってみてはどうかといった発言があるが、これは委員からの意見か。

小澤青少年センター所長 委員からの意見となる。インターネットは、近年、スマホの所持の低年齢化が進み、小学生の場合、2010年が約15%だったものが、2018年には46%、中学生に至っては40%が71%、高校生については88%が約98%と、高校生では、ほとんど全員が持っているような状況になっている。

また、その利用時間についても、2時間以上使う者が、小学生が40%、中学生が60%になっており、何に使うかという点、動画鑑賞、ゲーム、コミュニケーションのツールとして使っている。記憶にも新しいと思うが、大阪の少女が栃木の交番に保護されたような事件や、まだ顕在化しておらず事件にはなっていない案件もたくさんあるのではないかと委員が感じている中で、千葉県で警察が窓口になっている「千葉県インターネット防犯協議会」に依頼し、2月12日に講習会を開催する予定である。

鈴木教育長 講習会の対象者は誰か。

小澤青少年センター所長 青少年センター運営協議会委員を対象に、インターネットの実態を知っていただくために開催する。

鈴木教育長 では、対象は10人程度か。

小澤青少年センター所長 そうである。

鈴木教育長 せっかくの機会なので、10名程度ではもったいないと思う。

委員 理解を深めるために講習会を実施することも重要なことだと思う。また、学校の先生や保護者まで対象の幅を広げた講習会なども検討していただきたいと思う。

鈴木教育長 2月12日の講習会は、指導課の生徒指導担当にも声をかけていただき、もし可能であれば、今後、学校や教員研修などを実施してほしいと思う。1月末に青少年問題協議会があり、インターネット上のトラブルは学校だけでは解決がなかなか難しいと話をさせていただいた。

委員 企業の協力を得て、保護者に家庭でどのように携帯を使うかなどの講座を行い、地道に意識づけすることが重要だと思う。1年程前に読んだ文献には、規制しても改善はされず、どうしたら上手に使えるかを親と話合うことが重要とあった。韓国は、インターネット依存の関係などでは先進的で、中国や韓国は、国が裏で規制しているため、韓国の子どもたちは、それを避けるためフリーでつながることができる日本を経由してゲームをしているという話を聞いた。

小澤青少年センター所長 千葉県では、ネットパトロールを行っている。青少年センターでもセンターだよりもスマホの利用ルールを呼びかけたり、ウェブサイトにて周知をしている。周知が行き届いているかどうかを検証することは難しいが、地道に周知することが大事だと思う。

鈴木教育長 ほかによろしいか。

次に、その他・報告事項に移る。

報告事項の(1)については、事前にお配りした資料をもって報告とさせていただきます。

報告事項の(2)から(4)について、事務局からの説明を求める。

鈴木教育長 ただいま報告がなされたその他・報告事項4件についての質問を受け付ける。

委員 意識調査は、全校を対象にしていると思うが、調査結果に学校間の格差などはあるか。

丸山指導課長 学校間の格差については、まだ確認はできていないが、今後確認していきたいと考えている。

委員 SNSのトラブルに遭う子どもたちの居住区が似ていたため、学校間で格差があるように感じている。

鈴木教育長 共催・後援行事一覧にある令和元年度葛南地方生涯学習振興大会とは何か。

島崎生涯学習課長 令和元年度葛南地方生涯学習振興大会は、葛南教育事務所が所管する事業であり、浦安、船橋、市川、八千代、習志野の管内5市で構成される葛南地方社会教育連絡協議会が主催で、会場が浦安市となるため、浦安市教育委員会の共催となっている。記載のとおり、2月9日(日)午後1時20分から午後4時20分まで、J：COM浦安音楽ホールのハーモニーホールで開催する予定である。事業の企画は習志野市が担当となり、講演のテーマは「令和時代の地方自治と市民活動」で、元三重県知事の北川正恭さんに講演を行っていただく。その後、事例発表を八千代市と習志野市の方にお願ひし、パネルディスカッションを行う予定である。

鈴木教育長 「2020 明海大学『大学との連携の未来』シンポジウム～これから求められる大学の役割と方向性～」とは、これはどんな内容か。

宇田川教育政策課長 「サービ斯拉ーニングによる大学と地域の連携の意義」と題する基調講演と、3つの分科会に分かれた活動報告となる。活動報告は、東京都立高等学校連携と足立区教育連携、そして、浦安市と横手市の教育連携となる。これが第1分科会から第3分科会に分かれて行われ、その後、

ポスターセッションがあり、最後に各分科会によるパネルディスカッションとなる。

鈴木教育長 本市の学校も何か関係するのか。

宇田川教育政策課長 パネルディスカッションの第3分科会で、明海大学で進めてきた「浦安市・横手市の連携の検証と今後の可能性を探る」というテーマで、パネルディスカッションがあるが、そこに教育委員会、学校関係者、校長先生1名が参加すると聞いている。

鈴木教育長 学校名は把握しているか。

宇田川教育政策課長 現在交渉中のため、まだ学校名は確認できていない。

鈴木教育長 明海小学校ではないのか。

丸山指導課長 明海大学の学生が学習支援に入っている学校が複数校あり、その学校が対象になると思う。学校行事等の関係から大学で調整していると思う。

鈴木教育長 では、明海小学校だけではないということか。

丸山指導課長 明海小学校と日の出小学校と美浜南小学校のいずれかになると思う。

鈴木教育長 何かあるか。よろしいか。

それでは、議事の第6. その他に入るが、本日、その他の事項の上程はない。

次に、各委員から発言をお願いします。

委 員 一つは、前回の定例の教育委員会で、ヘルスプロモーションスクールの紹介をさせていただいた継続案件である。岡山市は、G20の国際会議

で保健関係の分野を開催したということで、背景に医療関係が充実している点がある。そういった中で、岡山市としては「ポジティブヘルス岡山」という健康をテーマにして、市として健康づくりに力を入れている。市長との総合教育会議のときに、横串でつなげるテーマとして、参考になるかと思い、配付させていただいた。

今日の報告にあった生涯学習×高齢社会フォーラムも、まさにここにも関連するテーマで、学校教育だけではなく、大人になり、高齢になってからも、生き生きと生きがいを持って生活できる社会を目指す中では、非常に面白い取り組みであると思う。

もう一つは、知人からの情報で、ICT関係で、昨年度末に国が大きな予算をかけて、学校現場に1人1台PCをとというものがあつたが、実際に幾つかの情報感度の高い市町村が、キーマンの方に直接アプローチして情報収集しているという話を聞いている。ぜひアプローチも積極的にしていくべきかと思い、お話したというところである。

鈴木教育長 タブレット配付については、新聞記事でも全ての義務教育に1人1台配付というのが大きく出ていたが、来週、文部科学省の担当による説明会があり、本市からも醍醐次長と指導課の担当指導主事に参加していただくので、後日その報告をしたいと思う。

宮澤委員からは、ぜひ新国立競技場について伺いたい。

委員 1月1日に天皇杯があり、新しく出来た国立競技場に行った。第一印象は、すばらしい建物で、木がふんだんに使われていて、客席がお客さんで埋まっているように見えるよう工夫がされていた。グラウンドに下りて上を見上げると、観客席が雨に濡れないようスタンドが曲がっていた。また、縁が全て木で出来ているため、そこに鳥が入らないよう間にネットが張られていた。以前の国立競技場は、雨が降っていても晴れ用のスパイクを履きたいぐらい地面が固かったが、今は、まだ芝が根付いていないこともあり、少し柔らかい状態のため、フィールド内を使う選手には、もう少し時間がかかるといったやりづらさがあると思う。また、

外のトラックは、非常に反発があって良さそうである。ただ、仕事を
する立場からお話しさせていただくと、観客席からグラウンドを見ると勾
配があり見やすいが、手すりがないと階段を降りるのも怖く感じるほど
の勾配となり、スペインのサンティアゴ・ベルナベウという競技場に似
ていた。各ブースには、ガラスではなく、シャッターがつけられている
ため、シャッターを開けて、外で話すという形になるため、ハーフタイ
ムに解説者がトイレに駆け込む様子が見られ、新しいのに残念に感じた。
また、女性用トイレは、個室数は多いが、2カ所にしかないため、トイ
レ前にはずらっと人が並んでいた。あと、少し大きめのペットボトルは、
観客席のペットボトルホルダーに入らない。また、前の人の席の背もた
れにホルダーがついているため、前の人が動いたりすると、倒れてしま
いそうで心配になった。そして、日本の競技場らしいと思ったのは、た
くさんの部屋があるが、入り口が全部同じ色で、すべてコンパクトに並
んでいるため、どの部屋が何の部屋かが、全然わからない。今までの国
立競技場は、重量感のある木のドアがある部屋が記者会見室となってい
たり、全部色が違っていて、趣があったが、ここまでは経費が使えなか
ったのかと感じたり、動線が少し狭過ぎるように感じた。すべてを見た
わけではないが、プレーヤーズファーストということを考えたらよい競
技場であると思う。観客にとっても見やすいと思うが、過ぎづらいと
思った。

鈴木教育長 それでは、以上で令和2年浦安市教育委員会第1回定例会を閉会する。

閉 会 (午後4時41分)